倉敷アイビースクエア

一輪の綿花から始まる倉敷物語

3月23日、倉敷アイビースクエア内にある倉紡記念館を中心に紹介するテレビ番組が放送されました。

岡山県と香川県を放送地域とするKSB瀬戸内海放送が制作する倉敷市の広報番組「磯田道史徹底解説　日本遺産」シリーズの第5弾で『一輪の綿花から始まる倉敷物語～明治以降の倉敷編～』をテーマに放送されました。

提供：KSB瀬戸内海放送

磯田道史さんはいろいろなテレビ番組でも活躍されている岡山県出身の歴史学者です。ご存知の方も多いのではないでしょうか？

「多くの観光客でにぎわう倉敷美観地区。江戸時代から受け継がれた海鼠壁や土蔵、そこにアクセントを加える威風堂々とした西洋建築、これら和と洋が織りなす倉敷美観地区の町並みが生まれた背景には繊維産業が深く関係している」というナレーションで始まり、倉敷に繁栄をもたらした繊維産業の歴史を磯田さんが独自の視点で徹底解説するという内容で、倉敷紡績の発祥工場を再開発した倉敷アイビースクエアで収録が行われたものです。

筆者もアイビーや倉紡記念館の案内人ということで収録に立ち会いました。これまで観光で来られた方々に館内の案内をしてきた筆者ですが、磯田さんの切り口はとても新鮮で、大いに刺激を与えていただきました。いくつかご紹介しましょう。

まずは、クラボウ創業に大きく関わった3人の青年が、どう悩み、どう決断し、どのように大原孝四郎をはじめとする人たちの信用を得ることができ、そして会社設立にこぎつけたのか。もともと綿花栽培が盛んであった倉敷の地であるが、単に綿花を出荷するだけの農業地帯で良いのか、綿糸にして販売すれば付加価値がついて豊かさが倉敷に落ちると説いたということ。

大原孫三郎が「従業員の幸福なくして事業の繁栄はない」という労働理想主義を具現化していく過程では、ともすれば危険思想とみなされることがあったが、労働者がひどい状態で放っておかれたら革命が起きるだろう、だから革命が起きないように労使は協調しながら進めていかないと日本の未来はないと自分の考えを推し進めたこと。

アナウンサーの方が「昨年のG7倉敷労働雇用大臣会合が倉敷アイビースクエアを主会場として行われたことが腑に落ちました」とおっしゃったのも印象的でした。

番組ではクラボウが提供した大正時代の倉敷の町や工場内の映像が随所で使用されていました。この映像は倉紡記念館で見ることができます。皆さんもぜひ、クラボウ創業の地倉敷にお越しいただき、倉敷アイビースクエアをそして倉紡記念館を見学してみてください。

（総務部　高橋　亮輔　記）

提供：KSB瀬戸内海放送

KSB瀬戸内放送のYouTube公式チャンネルにて、この番組を見逃し配信で視聴可能です。
（2025年3月31日まで）